



特集展示

院展の画家たち III 禅僧の如き風姿

一富田溪仙の画境



1. 富田溪仙《雲上鶴図》1935頃 顔料、絹（二曲一双屏風） 滋賀県立近代美術館蔵

コレクション展 2018 - 夏秋

2018.8.4 Sat. - 10.21 Sun.

特集展示

鈴木昭男
音と場の探究

掲載用画像については
広報担当にお問合せ下さい。



2. 「階段に物を投げる」1963
(雑誌『デザイン』(1976)ための再演)
photo:Nanae SUZUKI

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

コレクション展 2018 - 夏秋

2018年8月4日(土)～10月21日(日)

和歌山県立近代美術館のコレクション展では、日本画・洋画・彫刻・版画など、総数1万点を超える所蔵品を通じて幅広い美術の表現に接していただけるよう、季節ごとに展示を替え、特集コーナーも設けながら作品紹介を続けています。

また、滋賀県立近代美術館が大規模な増築・改修を行うにあたり、その休館期間中、同館が誇るコレクションの一部を当館で公開することとなりました。

今回は、そうしたふたつの近代美術館のコレクションなどにより、【和歌山ゆかりの作家と近代美術】【特集 院展の画家たちⅢ】【戦後日本の美術】【アメリカ抽象表現主義と現代美術】【特集 鈴木昭男 音と場の探究】のコーナーを設け、作品を紹介します。

【特集 院展の画家たちⅢ】では滋賀県立近代美術館所蔵の日本画コレクションから、「禅僧の如き風姿 - 富田溪仙の画境」として、大正初期から昭和初期にかけて日本美術院で活躍した富田溪仙(1879-1936)を紹介します。

【特集 鈴木昭男 音と場の探究】では、日本におけるサウンド・アートの先駆者として知られる鈴木昭男(1941- 平壤生まれ/京都府京丹後市在住)の活動を、作家が所蔵する資料を中心に紹介します。



3. 《祇園夜桜図》制作年不詳
顔料、絹(※)

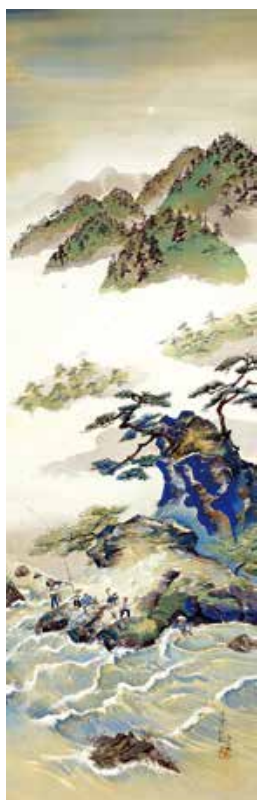


4. 《『列仙』のうち西王母》1920 顔料、紙(※)

特集展示

院展の画家たちⅢ

禅僧の如き風姿—富田溪仙の画境



5. 《保津鮎釣》1935頃
顔料、絹(※)

滋賀県立近代美術館が大規模な増築・改修をおこなうにあたり、その休館中に同館のコレクションの一部を当館で公開しています。このコーナーでは、日本美術院展覧会(院展)の出品作家を核とする滋賀県立近代美術館の充実した日本画コレクションを、「院展の画家たちⅢ」と題して特集します。

日本美術院とは、1898(明治31)年、東京美術学校(現在の東京藝術大学)を退職した岡倉天心を中心とし、ともに同校を退いた橋本雅邦、横山大観、下村観山、菱田春草らにより創設された美術団体です。今回は、大正初期から昭和初期にかけて日本美術院で活動した富田溪仙(1879-1936)を紹介します。

溪仙は、郷里の福岡から画家を志し京都へ出て、当時新進気鋭の日本画家であった都路華香に学びます。その奔放な振る舞いから、しばしば「奇人」とも称された溪仙の独創性豊かな芸術は、そこに「生き活きとした妙味」を認めた俳人・河東碧梧桐というよき理解者を得て全国に知られることとなります。やがて溪仙は横山大観にも才を見出され、1914(大正3)年に再興された日本美術院で活躍します。溪仙は、やまと絵や南画といった古画のほか、近代西洋絵画など、様々な美術へ幅広い関心を持ち、特に江戸時代の禅僧仙厓の画に傾倒しました。禅画にも通じる、あたかも子供が描いたような技巧を排した溪仙の作風は、当時「今仙厓」と揶揄されましたが、溪仙の超然とした制作態度や作品は、駐日大使として来日していたフランス人の詩人・劇作家のポール・クローデルや、和歌山出身の詩人・佐藤春夫など、数多くの文化人に支持されました。

本展では、院展出品《列仙》など5点の作品と資料を展示し、禅僧のような風姿を漂わせ、俗世に交わらずに芸術家としての真摯な創作活動を続けた富田溪仙の画境をご覧ください。

AKIO SUZUKI

Studies in Sonority and Space

〔特集展示〕 鈴木昭男 音と場の探究

2018.8.4 ① - 10.21 ⑧



6



7



8

6.「音のオブジェと音具展」南画廊（東京） 1976

7.「日向ぼっこの空間」1988 photo:Junko WADA

8. ドクメンタ8（カッセル）でのパフォーマンス 1987 photo:Terry FOX

特集展示

鈴木昭男 音と場の探究



9. 和歌山市内での点音 2005

日本におけるサウンド・アートの先駆者として知られる鈴木昭男^{すずきあきお}（1941—平壤生まれ／京都府京丹後市在住）は、1960年代より、常に「聴く」側にまわり、音と場の関わり方を模索する姿勢によって、音のイベントやパフォーマンス、インスタレーションなどを国内外で展開してきました。

1963年、名古屋駅のホームの「階段に物を投げる」ことに始まる、空間への「なげかけ」と「たどり」を「自修イベント」として行うなかから、1970年代には「アナラポス」などのエコー音器を創作し、身近な素材を使った数々のサウンド・イベントを実施します。1976年には、南画廊（東京）にて初めての個展「音のオブジェと音具展」を開催。その後、フェスティバル・ドートンヌ・パリ（1978/フランス）や、ドクメンタ8（1987/ドイツ）に参加するなど、国際的な場での活動も本格化していきます。1988年には、子午線上にある京都府網野町（現在の京丹後市網野町）にて、「日向ぼつこの空間」を発表。秋分の日、自然の音に一日耳を澄ます行為が話題となりました。1990年代になってからは、「聴く」という行為を鈴木独自の思考や方法によって探究したコンセプチュアルなサウンド・インスタレーションを、各地

の美術館やギャラリーで展開し、発表を続けています。

1996年にベルリンにて発表した、自然や都市の風景に耳を澄ます「点音（おとだて）」は、世界各地で行われ、日本では2005年に初めて、和歌山市内と熊野古道なかへち美術館周辺にて開催されました（和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館の共催）。

この秋には、ボン市立美術館でのインスタレーションの発表を控えるなど、現在も精力的な活動を続ける鈴木昭男。当館では、これまでの鈴木昭木の活動を、資料などによって振り返る特集展示をおこないます。



10. 桜画廊（名古屋）でのパフォーマンス 1985頃

関連事業

● 鈴木昭男トーク&パフォーマンス

【日時】8月5日（日）14時から

和歌山県立近代美術館 1階展示室Bおよび2階ホールにて（※申込不要、要観覧券）

● ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）

【日時】9月15日（土）、23日（日）、10月21日（日）14時から 1階展示室Bにて（※申込不要、要観覧券）

開催概要

| | |
|------|--|
| 会場 | 和歌山県立近代美術館 1階展示室 |
| 会期 | 2018年8月4日（土）～10月21日（日） |
| 主催 | 和歌山県立近代美術館 |
| 特別協力 | 公益財団法人脇村奨学会（特集展示「鈴木昭男 音と場の探究」） |
| 開館時間 | 9時30分～17時（入場は16時30分まで） |
| 休館日 | 月曜日（9月17日、24日、10月8日は開館し、9月18日、25日、10月9日が休館） |
| 観覧料 | 一般 340(270)円、大学生 230(180)円（ ）内は20名以上の団体料金 * 高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 * 毎月第4土曜日（8月25日、9月22日）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料 |



熊野古道なかへち美術館 開館20周年記念特別展 **鈴木昭男 一内 在**

2018年10月6日(土)～11月25日(日)

熊野古道なかへち美術館では、開館20周年記念特別展として、「鈴木昭男 一内 在」が開催されます。「音の内在」をテーマとした新作が美術館の内外に設置される本展では、鈴木作品によって、あらためて熊野古道なかへち美術館、そして美術館の存する環境について再考、再認識させるものとなる予定です。



11. 《内在》のためのスケッチ 2018



12. 《階段》のためのスケッチ 2018



13. 《匂》のためのスケッチ 2018

開催概要

| | |
|------|---|
| 会場 | 熊野古道なかへち美術館（田辺市立美術館分館） |
| 会期 | 2018年10月6日（土）～11月25日（日） |
| 主催 | 田辺市立美術館 |
| 特別協力 | 公益財団法人 協村奨学会 |
| 開館時間 | 10時～17時（入場は16時30分まで） |
| 休館日 | 月曜日（10月8日は開館し10月9日が休館） |
| 観覧料 | 一般 400(320)円（ ）内は20名以上の団体料金 * 学生および18歳未満は無料 |

関連事業

● オープニングパフォーマンス 鈴木昭男 なげかけ — na ge ka ke —

【日時】10月6日（土）18時から 熊野古道なかへち美術館交流スペースにて（※要予約先着順・無料、定員40名、小学生以上）

【申込】9月15日（土）10時から電話で予約の受付を開始。田辺市立美術館（0739-24-3770）

● クロージングパフォーマンス 鈴木昭男 × 宮北裕美（ダンサー/アーティスト）たどり — ta do ri —

【日時】11月25日（日）14時から

熊野古道なかへち美術館交流スペースほかにて（※申込不要、要観覧券）

【同時期開催】

なつやすみの美術館 8 タイムトラベル

【会期】7月7日（土）～9月2日（日）

【会場】2階展示室

和歌山—日本

和歌山を見つめ、日本の美術、そして近代美術を見つめる

【会期】9月8日（土）～10月20日（土）

【会場】2階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村一郎、藤本真名美 / 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690（代表）

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>